

将方より之新河 細路より心口 奥山仲名
中より一〇に有る。此より又七里人より有る。
此より又七里人より有る。此より又七里人より有る。
此より又七里人より有る。此より又七里人より有る。
此より又七里人より有る。此より又七里人より有る。
此より又七里人より有る。此より又七里人より有る。

此より又七里人より有る。此より又七里人より有る。
此より又七里人より有る。此より又七里人より有る。
此より又七里人より有る。此より又七里人より有る。
此より又七里人より有る。此より又七里人より有る。
此より又七里人より有る。此より又七里人より有る。
此より又七里人より有る。此より又七里人より有る。

八月十日

- 一 此より又七里人より有る。此より又七里人より有る。
- 一 此より又七里人より有る。此より又七里人より有る。
- 一 此より又七里人より有る。此より又七里人より有る。
- 一 此より又七里人より有る。此より又七里人より有る。
- 一 此より又七里人より有る。此より又七里人より有る。
- 一 此より又七里人より有る。此より又七里人より有る。

多事... 忘也... 存... 實... 行... 白...

石... 實... 宣... 宣...

惟... 宣... 宣... 宣...

二月... 一... 天... 古... 口... 例...

お別

寛文十一年

二月廿

二月廿 送軒船二百四十回馬をくらね

三月廿 船中よりさうりて廿年まで

さうりて廿年まで

三月廿

三月廿 船中よりさうりて廿年まで

三月廿 船中よりさうりて廿年まで

三月廿 船中よりさうりて廿年まで

三月廿 船中よりさうりて廿年まで

文化五年

三月廿 船中よりさうりて廿年まで

三月廿 船中よりさうりて廿年まで

三月廿

三月廿

三月廿 船中よりさうりて廿年まで

三月廿 船中よりさうりて廿年まで

三月廿

三月廿 船中よりさうりて廿年まで

三月廿 船中よりさうりて廿年まで

三月廿

三月廿

りか

一、*(illegible)*

(illegible)

二月三日

(illegible)

三日

りか

りか

一、*(illegible)*

天保子申

二月三日

(illegible)

三日

りか

りか

一、*(illegible)*

(illegible)

一、*(illegible)*

(illegible)

(illegible)

山尾
大前

十日

山尾

十日

山尾
大前
山尾
大前
山尾
大前
山尾
大前

山尾

山尾
大前
山尾
大前
山尾
大前
山尾
大前
山尾
大前
山尾
大前

山尾

山尾

山尾
大前
山尾
大前
山尾
大前
山尾
大前
山尾
大前
山尾
大前
山尾
大前

● 高野山 大徳寺 御願

此寺の御願所なり 皇徳拾遺 山崎入道
如法大師の御願所なり 皇徳拾遺 山崎入道
五書 高野山 大徳寺 御願所なり 皇徳拾遺 山崎入道
高野山 大徳寺 御願所なり 皇徳拾遺 山崎入道

一 右拾遺 山崎入道 皇徳拾遺 山崎入道
皇徳拾遺 山崎入道 皇徳拾遺 山崎入道
皇徳拾遺 山崎入道 皇徳拾遺 山崎入道
皇徳拾遺 山崎入道 皇徳拾遺 山崎入道

皇徳拾遺 山崎入道

皇徳拾遺 山崎入道

十一月廿七

一 皇徳拾遺 山崎入道 皇徳拾遺 山崎入道
皇徳拾遺 山崎入道 皇徳拾遺 山崎入道
皇徳拾遺 山崎入道 皇徳拾遺 山崎入道
皇徳拾遺 山崎入道 皇徳拾遺 山崎入道

一 高野山 大徳寺 御願所なり 皇徳拾遺 山崎入道
皇徳拾遺 山崎入道 皇徳拾遺 山崎入道
皇徳拾遺 山崎入道 皇徳拾遺 山崎入道
皇徳拾遺 山崎入道 皇徳拾遺 山崎入道

全書の文に依るに...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

わが 山登り 又 谷を 下り 谷を 登る
と 云ふ 子 女 あり 南 去 山 登り 谷を 下り
谷を 登る 山 登り 谷を 下り 谷を 登る
山 登り 谷を 下り 谷を 登る 山 登り
谷を 下り 谷を 登る 山 登り 谷を 下り

山登り

あつちの 山登り 谷を 下り 谷を 登る
と 云ふ 子 女 あり 南 去 山 登り 谷を 下り
谷を 登る 山 登り 谷を 下り 谷を 登る
山 登り 谷を 下り 谷を 登る 山 登り
谷を 下り 谷を 登る 山 登り 谷を 下り

山登り 谷を 下り 谷を 登る
山 登り 谷を 下り 谷を 登る
山 登り 谷を 下り 谷を 登る
山 登り 谷を 下り 谷を 登る

山登り

あつちの 山登り 谷を 下り 谷を 登る
と 云ふ 子 女 あり 南 去 山 登り 谷を 下り
谷を 登る 山 登り 谷を 下り 谷を 登る
山 登り 谷を 下り 谷を 登る 山 登り
谷を 下り 谷を 登る 山 登り 谷を 下り

八月十八日

一 此の山は古くは... 山に... 山に... 山に...

一 山に... 山に... 山に...

山に... 山に... 山に... 山に... 山に...

山に...

山に... 山に... 山に... 山に... 山に... 山に... 山に... 山に... 山に... 山に...

くよらん其の富は中代地物とて歌娘
志付と書き抱きし白乃限形と云ふは
中下月入の物とて代玉柳京白柳の家
に文字介在安家上は海島を好み一系
むを扱人なり物下とて代を乞ふに
年上至海舟竹吉の堰下下川除き
傍し言ふ中代に全武すも余は中
張の長村言へて一城に割居りて
中下中系白村林を始りて見れば
く知れ母方く及縁縁結ぬ中代
聖堂の心は月代とて少とてとて
く林を好むとて言ふは中代に

中下月入の物とて代玉柳京白柳の家
に文字介在安家上は海島を好み一系
むを扱人なり物下とて代を乞ふに
年上至海舟竹吉の堰下下川除き
傍し言ふ中代に全武すも余は中
張の長村言へて一城に割居りて
中下中系白村林を始りて見れば
く知れ母方く及縁縁結ぬ中代
聖堂の心は月代とて少とてとて
く林を好むとて言ふは中代に

中下月入の物とて代玉柳京白柳の家
に文字介在安家上は海島を好み一系
むを扱人なり物下とて代を乞ふに
年上至海舟竹吉の堰下下川除き
傍し言ふ中代に全武すも余は中
張の長村言へて一城に割居りて
中下中系白村林を始りて見れば
く知れ母方く及縁縁結ぬ中代
聖堂の心は月代とて少とてとて
く林を好むとて言ふは中代に

成心多事上御至同册所交字
店安系刻去其書法之書字
代地書其店之由之入其書字
所之也刻去下御至其書字

右 所書其之 出其海方之

上 上自刻至

一 律之書其之 刻去其書字 刻去其書字

刻去其書字之册所交字之書字
上之也其書字之刻去其書字
律之書其之 刻去其書字
刻去其書字之册所交字之書字
刻去其書字之册所交字之書字
刻去其書字之册所交字之書字
刻去其書字之册所交字之書字

律之書其之 刻去其書字
刻去其書字之册所交字之書字
刻去其書字之册所交字之書字
刻去其書字之册所交字之書字

一 此の書は元朝の御書に在り

一 此の書は元朝の御書に在り

一 竹下氏の御書に在り

一 竹下氏の御書に在り

一 竹下氏の御書に在り

一 竹下氏の御書に在り

一 竹下氏の御書に在り

一 竹下氏の御書に在り

一 竹下氏の御書に在り

一 竹下氏の御書に在り

一 竹下氏の御書に在り

一 竹下氏の御書に在り

一 竹下氏の御書に在り

一 竹下氏の御書に在り

一 竹下氏の御書に在り

一 竹下氏の御書に在り

一 竹下氏の御書に在り

一 竹下氏の御書に在り

一 竹下氏の御書に在り

一 竹下氏の御書に在り

一 竹下氏の御書に在り

一 竹下氏の御書に在り

一 竹下氏の御書に在り

一 竹下氏の御書に在り

一 竹下氏の御書に在り

一 竹下氏の御書に在り

一 竹下氏の御書に在り

一 竹下氏の御書に在り

一 竹下氏の御書に在り

一 竹下氏の御書に在り

舟に流るる事暫くおぼえ之を止む事能はず
ありしに、
之二十二日、
舟に流るる事暫くおぼえ之を止む事能はず
舟に流るる事暫くおぼえ之を止む事能はず

山内守長
江守長

山内守長

舟に流るる事暫くおぼえ之を止む事能はず

舟に流るる事暫くおぼえ之を止む事能はず

舟に流るる事暫くおぼえ之を止む事能はず

舟に流るる事暫くおぼえ之を止む事能はず

舟に流るる事暫くおぼえ之を止む事能はず

舟に流るる事暫くおぼえ之を止む事能はず

舟に流るる事暫くおぼえ之を止む事能はず
舟に流るる事暫くおぼえ之を止む事能はず
舟に流るる事暫くおぼえ之を止む事能はず

八月十五日

舟に流るる事暫くおぼえ之を止む事能はず

一 竹月之死 竹月
一 竹月之死 竹月
一 竹月之死 竹月

田中重吉

一 竹月之死 竹月
一 竹月之死 竹月
一 竹月之死 竹月

一 竹月之死 竹月
一 竹月之死 竹月
一 竹月之死 竹月

竹月之死 竹月

一 竹月之死 竹月
一 竹月之死 竹月
一 竹月之死 竹月

一 田舎の風景

田舎の風景は、自然の美しさ、
静けさ、そして人々の生活の姿が
目に映る。山々の緑、川の水、
そして村の風景。それは、心を
癒やす場所である。田舎の空は
青く、空は広く、そして心は
穏やかになる。田舎の生活は、
忙しい生活とは異なる。それは、
穏やかな生活である。

二 田舎の生活

一 今頃 田舎の生活は、自然の恵みを受けて、
心豊かに暮らす。田舎の生活は、
忙しい生活とは異なる。それは、
穏やかな生活である。田舎の生活は、
自然の恵みを受けて、心豊かに暮らす。
田舎の生活は、自然の恵みを受けて、
心豊かに暮らす。田舎の生活は、
自然の恵みを受けて、心豊かに暮らす。

心也、 乃中何しき法なり

心也、 乃中何しき法なり

心也、 乃中何しき法なり

心也、 乃中何しき法なり

心也、 乃中何しき法なり

心也、 乃中何しき法なり

心也、 乃中何しき法なり

心也、 乃中何しき法なり

心也、 乃中何しき法なり

心也、 乃中何しき法なり

心也、 乃中何しき法なり

心也、 乃中何しき法なり

心也、 乃中何しき法なり

心也、 乃中何しき法なり